

琵琶湖沿岸及び伊庭内湖におけるホンモロコの産卵状況

亀甲武志・三枝 仁・根本守仁

1. 研究目的

これまで、琵琶湖北湖の主要な産卵場においてホンモロコの産卵状況を調査し、5月中旬から6月中旬の人為的な水位低下が卵の生残割合を低下させることを明らかにした。今年度は琵琶湖沿岸の2地点とホンモロコ資源が回復傾向にある伊庭内湖の、合計3地点でホンモロコの産卵状況を調査した。

2. 研究方法

大津市小野、湖北町海老江、東近江市伊庭内湖の3カ所において、湖岸距離約50～1000mのヨシ・ヤナギ帯で4月から7月までおよそ週に1回の頻度で前年と同様の方法によりホンモロコの産卵状況を調査した。干出の評価は、調査日から7日後まで水面上にあった卵を干出・死亡卵、調査日から7日後まで水面上にも水面下にもあった卵を干出・生残不明卵、調査日から7日後まで水面下にあった卵を生残した卵とした。

3. 研究結果

産着卵は4月8日から6月30日まで確認された(図1～図3)。産卵のピークは場所によって違いがあり、伊庭内湖、大津市小野、長浜市海老江の順に遅かった。琵琶湖水位は6月上旬までは+10cm前後を維持していたが、それ以降急速に低下した。水位が急速に低下した時期は干出死亡が認められたが、それ以外の時期は干出死亡はあまり認められなかった。昨年度は約1か月間にわたり徐々に水位が低下したため、多くの干出死亡が認められた。このことから、水位はできるだけ長期間維持させることがホンモロコにとっては重要と考えられる。

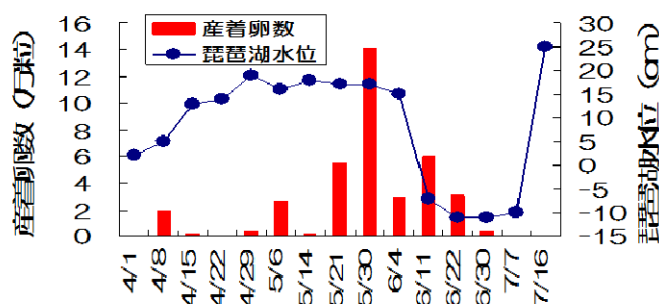


図1 大津市における産着卵数の推移

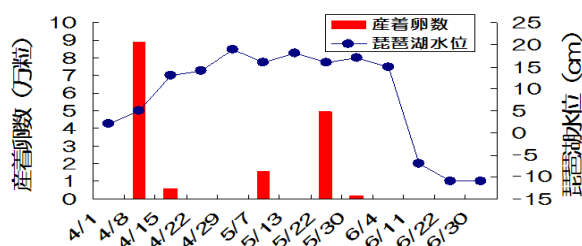


図2 伊庭内湖における産着卵数の推移

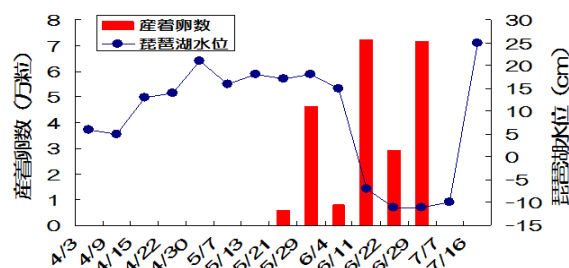


図3 湖北町海老江における産着卵数の推移

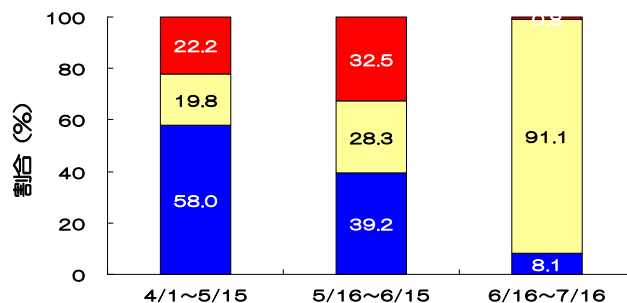


図4 時期ごとの産着卵の干出状況

■ 生残卵 ■ 生死不明卵 ■ 干出・死亡卵